

「2019年度日本代表候補選手強化育成事業 第2回全国ブロック選抜合宿」
参加報告書

山口県 FID バスケットボール連盟

期日 令和元年（2019年）12月28日（土）29日（日）30日（月）
会場 神奈川県立横浜緑ヶ丘高校
参加選手 男子：門脇治喜、井野貴翔
参加指導者 大野晋平（男子選抜チームコーチ）

日本 FID バスケットボール連盟の主催による標記合宿が開催されました。今回の合宿は、6月の第1回のブロック選抜合宿で選考された選手、全国6ブロックの中から新たに推薦された選手を対象に行われました。今回の合宿は FID 男子代表チーム第3次合宿と合同で開催され、個人のスキルアップの向上、2対2、3対3、5対5などの実践を中心としたプレイ指導が行われた。

山口県選抜チームからは、上記の2名の選手と1名の指導者が参加し、日本連盟や各県のスタッフの方と多く交流することができ、つながりを深めることができました。トップレベルの選手と一緒にプレイすることで、技術や行動、練習への取り組み方や雰囲気を感じることができました。今後、その成果を自分たちはもちろん、山口県全体のレベルアップに生かしていきます。また今回の合宿はブロック選抜の韓国遠征に参加する選手の選考も含まれていました。山口県からは門脇治喜選手がメンバーに選ばれました。

以下、参加選手と参加スタッフの感想を記載します。

【門脇治喜選手】

今回の合宿は第1合宿と違って、高いスキルや状況判断する練習が多く、難しくてできないことがたくさんありました。それでも声を出して、しっかりコミュニケーションをとり、練習に取り組むことができました。一生懸命頑張った結果、韓国遠征のメンバーに選ばれることができました。日本代表として活動する自覚をもって、これからバスケットボールだけでなく、生活面でもしっかりしていきたいと思います。

これまで色々協力してくださった山口県 FID 連盟、監督・コーチ、チームメート、家族には感謝の気持ちでいっぱいです。本当に皆さんありがとうございました。これからも頑張りますので、応援をよろしく願いいたします。

【井野貴翔選手】

3日間の合宿で、ディフェンスやオフェンス、ドリブルの練習、スクリーンの練習などを教わりました。その中でも、今後はドリブルを強くついてうまくなれるようになりたいと思いました。そのためにも、これまで以上にたくさん練習する必要があると感じました。残り少ない学生生活ですが、放課後学校に残って練習に取り組もうと思います。またディフェンスの声も大事であると感じ、自分から声を出せるようにしたいと思います。日本代表のコーチに習ったことを忘れず、チームメートにも伝えたいと思います。3日間の合宿に参加させていただき、ありがとうございました。これからも頑張りますので、応援よろしく願いいたします。

【山口県選抜男子コーチ 大野晋平】

前回の合宿に引き続き、今回の合宿視察においても、山口県 FID バasketボール連盟からバックアップしていただけたことに心から感謝します。

今回の合宿は、ブロック選抜だけでなく、A 代表（ナショナルチーム）も同時開催ということで、トップレベルの選手のプレイや代表チームの取り組みを確認することができました。また、山口県選抜選手は、トップレベルの選手と一緒に練習することができ、参加した選手ともに貴重な経験ができたと感じます。

ブロック選抜合宿組は、日本代表コーチから「良い習慣を身に着けること」「学んだことを地域に持ち帰ること」と最初に説明がありました。目的としては前回同様に、育成ということに変わりはないと感じました。また、最終日には各ブロック長や各チーム関係者に、日本 FID バasketボール連盟が作成した資料が配布され、「選手育成組織体制設置の目的」の説明がありました。

実施内容は、以下のとおりです。

初日.....ブロック選抜チームは、ウォーミングアップ、ウイングスパン計測、垂直飛びの計測ダッシュ、20mシャトルランなどのフィジカルテスト、ラダートレーニング。

2 日目...午前：フットワーク、パワーポジション、ドリブルドリル、ラダートレーニング、ディフェンスメニュー（シェルディフェンス）、シュートドリル、スクリメージ。

午後：ウォーミングアップ、シュートドリル、ドリブルドリル、スクリメージ、1 対 1

3 日目...ウォーミングアップ、ドリブルドリル、ヘジテーションを利用したドリブルシュート、

3 対 3、フリースロー、4 対 4 シェルディフェンス、スクリメージ、ラダートレーニング。

3 日間の合宿であったが、どの練習を見ている、前日に行った練習の復習をし、次の技術指導をされていたため、選手の成長を見ることができました。改めて、練習の反復の大事さを感じました。練習内容としては、A 代表とほとんど同じメニューを行ったため、ブロック選抜の選手には難しい場面も見られましたが、代表を目指すのであれば、そのスキルは必要であり身につけないといけないと感じ、山口県選抜チームにおいても実践していく必要があると思いました。

また、前回の第 1 回ブロック選抜合宿に参加した選手の中から、A 代表に召集された選手もあり、育成から強化へとつながっていることを認識することができました。今後、山口県から合宿に一人でも多くの選手を輩出できるよう、ファundamentalの定着、フィジカルの向上、選手発掘に取り組んでいきたいと考えています。

門脇選手が日本代表に選ばれ、韓国遠征に参加することに、大きな価値のあると感じています。今回の合宿において、日本連盟や各チームの関係者とさらに深い交流ができたため、継続して山口県から代表合宿に参加できる選手、日本代表として活躍できる選手を強化・育成し、繋がりを持ち続けたいと思いました。そのためにも、県内において様々なカテゴリーと協力、連携していくことで山口県 FID バasketボールの強化、普及につながると感じました。山口県が中四国ブロックの中心となれるよう、山口県選抜チームとしても成績を残していく必要があると感じています。これからも山口県のために貢献していきたいと思っています。